

### ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう  
 すべての人間の尊厳を重んじよう  
 教育・科学・文化の発展に努めよう  
 民族間の疑惑と不信を除こう  
 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

# やわらかくあたたかい手 国際平和年に思う

広島ユネスコ協会会長

河村盛明



今年には国際平和年。国連が全世界に呼びかけて平和と軍縮のためのキャンペーンを広く行なおうという趣旨である。このためには、さまざまな民間運動も連帯し合わなければならぬ。こととはむろん言うまでもない。ところがその大事な国際平和年の冒頭に、スエーデンのオロフ・パルメ首相が暗殺されるといふショッキングなニュースがとび込んで来た。暗殺という暴力沙汰とは一番縁のなさそうなか中立国の首相であり、世界の他の中立四か国とともに米ソの調停に当たろうとするなど国際平和について強力な発言力を持つ政治家がいつも簡単に路上で斃

れたことは、意外でもありかつ心から残念な出来事だった。パルメ首相は五年前の一九八一年十二月に「平和と安全保障に関する独立委員会」（通称パルメ委員会）の委員長として他の委員とともに広島を訪れ、ワークショップを開いた人でもあつた。国連事務総長に提出された最終報告書「共通の安全保障」の序文には、この広島での体験から書き起こし、カメラマンの松重美人さんの「あまりの悲惨な光景にシャッターを押すことができなかつた」という言葉を引用している通り、広島の見聞を脳裡に深く刻みつけておられた。「異常な兵器競争が続くならば、全人類の運命は、階段に焼き付いた人影と同様に、消滅してしまふだろう」と語られたワークショップでの力のこもった発言や、握手した掌があたたかくやわらかだったことなどが今しきりに思い出されてならない。

## メモ 日本ユネスコ国内委員会

わが国におけるユネスコ活動に関する助言、企画、連絡及び調査のための機関として文部省に置かれている「日本ユネスコ国内委員会」は、各界を代表する60名で構成され、通常会議や小委員会、分科会などの活動を通して、次のような仕事を行っています。

1. 関係大臣の諮問に応じて調査審議し、必要と認め事項を建議すること。
2. わが国におけるユネスコ活動の基本方針を策定すること。
3. 国内のユネスコ活動に関係のある機関及び団体等と連絡を保ち、情報を交換すること。
4. ユネスコ活動に関する調査並びに資料の収集及び作成を行うこと。
5. ユネスコの目的及びユネスコ活動に関する普及のために必要な事項を行うこと。
6. ユネスコ活動に関し、地方公共団体、民間団体又は個人に対して必要な助言を与え、これに協力すること。

なお、この国内委員会に、わが広島ユネスコ協会の河村盛明会長が委員として参画しています。

そして、同じ報告書の序文で「政府や専門家のイニシアティブを待っていたのでは軍縮は行われそうもない。軍縮は世界各地の民衆が政治意思を表明したときにのみ実現するのである」とはつきり述べられている。このことはもはや誰もが直感的に感じていることであり、今後の

平和運動の指針にもなる言葉であろうと思う。あのかげがえのない国際政治家パルメ氏がなくなつても第二、第三のパルメ氏が出て来てその理想を追及されねばならないし、必らずやうなるであろうことを信じたい。民間ユネスコ運動はまさに「民衆の政治意思」を表明する手段であり、国際平和年にさいしてユネスコ憲章の理想が着々と実りを深めるため、たとえささやかであつても私たちの歩みを止めるわけに行かない。あたたかもパルメ氏の掌のようにやわらかくあたたかい手によつてユネスコを支えつづけねばならないとつくづく思うのである。

### 3.6 文化講演会と映画の夕べを開催



磯村 尚徳 講演要旨

## 平和の運命握る米ソ 日本に孤立の危険性

### 経済という暴力を使う日本

広島ユネスコ協会は、去る三月六日午後六時から、ユネスコ創設四十周年と国際平和年を記念して、広島県民文化センターホールにおいて「ユネスコ・文化講演と映画の夕べ」を開催いたしました。

この催しは、NHK放送総局特別主幹の磯村尚徳氏による「世界の中の日本」と題する講演と、第六回ヒロシマ国際アマチュア映画祭の優秀作品二点（グランプリ受賞作品「敵味方に分れて」、特別賞受賞作品「ちちをかえせ、ははをかえせ」）を内容としたもので、(財)広島平和文化センター、(財)広島市文化振興事業団、(財)

広島市国際交流協会、NHK広島放送局、ヒロシマ国際アマチュア映画祭実行委員会の後援をいただいたおかげで、約四百人の参加者を得るなど、大きな反響を呼びました。

とくに、磯村氏の豊富な体験をもとにした広い視野に立ったお話は、聴衆の感銘を得、これからの日本の進むべき方向に貴重な示唆を与えてくれました。

ここでは、磯村氏の講演の要旨を紹介し、今後のユネスコの活動のあり方を考える資料にしたいと思っております。

今日は、主催者がユネスコ協会であり、また場所が広島であるということもございまして、まずなによりも平和の問題、それから平和の問題といえますと、どうしても米ソ関係、核兵器というふうにすぐお考えになると思いますが、案外皆様がお気づきにならないことに、経済というものもまた大変な暴力であります。

今、日本は世界の富を一身に集めております。反対に日本の繁栄の影で泣いている人が大勢いる。その意味で、この経済という暴力をフルに使っている日本の問題点をひとつ一緒に考えてまいりたいと思っております。

今日、私共NHKの認識というのは、日本は日露戦争の直前、このロシアのような大国から叩きつぶされそうになった時を第一の危機といたしますと、第二の危機がいわゆるこのあいだの戦争で、そして、皆様のようなこの広島はこの尊い犠牲の上に負けいさをして、そして、無一物から立ち上がって経済大国になったら、今おかれている日本の状況は、再び第二次大戦直前のような四面楚歌の状況でございまして、そういう本当の意味の第三の国難ともいえますし、第三の閉国を迫られているということであります。

つまり、ちよつと大戦前夜の

ような危機感をもっております。では、何故、私共が危機感をもっているか、米ソ関係はどうかというようなことを、私のことですからそんな堅い話はできませんけれども、一時間にわたってご静聴いただければ幸いです。

統計的に外からみる日本は、今、市場のもつとも豊かな国としての記録をぬりかえつつあるようです。ご承知のように、今年に入りまして一月の三十一日にアメリカの対外貿易の数字が発表になりました、日本に対する貿易の赤字は、四百九十七億ドルということになりました。まあざっと五百億でございまして、昨年がざっと三百六十九億ドル、一日に一億ドル、日本はアメリカを相手に稼ぎまくったわけですから、一日に一億ドルといえます。

とだいたい一秒に三十万単位でございまして。まあ私共、俗に日本は秒速三十万から四十万で世界を相手に稼ぎまくる大国になったんだというふうにいっております。そして日本は、その貯めたお金を今度はどうんと外国に金を貸して、あるいは不動産を買ってまいります。今、ニューヨークの目抜き通りの五番街、このあいだNHKのテレビで紹介いたしましたロサンゼルスが目抜き通りの持ち主はほとんど日本、日章旗でも立てろといわれればざつと日章旗の波になる位な勢いでございまして。歴史的な記録ということでは、まず、産油国がこの原油の値段がご承知の石油危機で四倍にはねあがりまして、一時、産油国の稼ぐドルが年間六百億ドルということがいわれておりました。秒速六十万円などということが言われたものです。今年はいきおいでいきますと、日本はその産油国がつくった歴史上もつとも激しい富の蓄積を上まわるいきおいでございまして。

これに反してアメリカの方は、どんどん借金国になっております。この調子でいくと、あと四年で一兆ドルという赤字をかかえこむ借金国になる。普通の国ならとうの昔に破産宣告です。

ところが、基軸通貨国といま  
して、アメリカという国は、ド  
ルという世界のお金をいくらで  
も印刷すればやっていける。し  
かも、強大な核兵器を持った軍  
事大国であるということ、な  
かなかその構造がくずれません。  
これじゃあ結局は大破局が訪れ  
て、ある時バンクをするという  
ことで、アメリカ・イギリス・  
フランス・西ドイツ・日本この  
西側の五大国の蔵相と中央銀行  
の総裁が、昨年の秋にニューヨ  
ークで会議を開きまして、せめ  
て日本の巨大な累積赤字とアメ  
リカの大変な赤字を解消するた  
めに、円高を誘導してドル安を  
ひとつ政府当局者でやろうじや  
ないかということで話し合いが  
はじまったのは、皆さんご承知  
のとおりです。これが、中央銀  
行とか政府のもっている持ち  
ちのお金は、世界でだぶついで  
るお金の中では、十五分の一  
か二十分の一程度の小さな規模  
だと大したことはあるまいとい  
われていたのですが、やはりア  
メリカ政府は日本政府が決心し  
て、強制介入ということになり  
ますと心理的な影響も大きくて、  
誰の予想をも上回る勢いで今円  
高が実現をしております。急速  
なスピードでございます。昨年  
の秋に一ドル二百四十二円であ

ったものが今百七十円代に入っ  
てきております。過去において  
一九七一年昭和四十六年に一ド  
ル三百六十円という固定相場か  
ら、三百八円に一拳に円高にな  
りました。これが第一回の円高  
ショックであります。二回目  
昭和五十三年一九七八年で、こ  
の時これまでの記録の百七十円  
代がでてるわけです。日本は、  
この二回の円高ショックも二回  
にわたる石油危機も、アメリカ  
もイギリスもフランスも失業者  
を出し、経済が停滞してアップ  
アップいつているスキにです、  
とうとうその二つの危機を見事  
のりきつて、先ほど冒頭に申  
しあげた史上空前の豊かな国に  
なりつつあるわけです。

しかもお金を持っているだけ  
じゃない。世界一の長寿国で  
ございます。これはどんなにすば  
らしいことかといえますと、日  
本人のたとえば女性の方の平均  
寿命は八十歳代ですが、男の方  
の場合でも七十五歳なんですけ  
れども、先進国のひとつである  
ソビエトと比べますと、なんと  
二十年も平均寿命の違いがあり  
ます。さらに治安がいい、ある  
いは教育が非常に普及している  
まあいいことづくめと外国から  
は見えます。なに、いじめの問  
題があるじゃないかとおっしゃ

るかもしれませんけれども、ア  
メリカの教室における暴力、麻  
薬の普及に比べればいじめの件  
数は二百分の一ぐらいの少なさ  
でございます。逆のいい方をす  
れば、アメリカの問題をかかえ  
ている地方の公立学校に行っ  
た場合には、日本の二百倍もの  
危険が教室に控えている。十三  
歳ですでに麻薬や売春の犠牲者  
がでるという状況ですから、物  
は見方によるわけで、日本はそ  
の意味でも各国からいんな教  
育の使節団が来て、そして調査  
をしていきます。で、お金持ち  
で長生きして、そして、しかも  
その富が少なくとも外国から見  
ると平等に分けられている。ひ  
とつこの、今回のソ連旅行で私  
が出合った経験を申しあげたい  
と思います。かつて、河野一郎  
さんという農林大臣がおられま  
した。自民党の大実力者でした  
が、その方がソ連に行かれてい  
ろんな方と会って、ソ連は共産  
主義の国ということになってん  
だけれども、ソ連の一般の労働  
者と共産党書記長という権力者  
との給与の差は、だいたい一対  
一万である、一万倍だと言  
うんですね。じゃあ、その反対  
のイデオロギーの立場をとるア  
メリカの場合はどうかという  
これももちろん税制その他はあ

るんですけれども、しかし、例  
えばゼネラルモーターズという  
世界一の自動車会社の社長さん  
のボーナスと一般の労働者のボ  
ーナスは、一対五百でございます。  
ところが、例えばNHK、これ  
は貧しいもんですから、どんど  
んアナウンサーを開放さんにも  
ついでかれますが、まあ、あま  
りいい例じゃないかもしれませ  
んが、NHKの入社したての大  
卒の職員が受け取る実質賃金で  
すね、税引後のと私共もう定年  
を過ぎてまた役員で残っている  
もの、そういうものの給与の差  
額というのは三・五倍ござい  
ます。一対三・五です。これは  
企業によって若干違いござい  
ますけれども、民間企業でもだ  
いたい社長さんと新入社員の差  
は一対七ぐらいということです  
ね。まあ、そんなような数字の  
話を実はこのあいだソ連の共産  
党の幹部といたしまして、あな  
たの国が七十年かかってボルシ  
エビキ革命だつてやつてること  
なんだけれど、日本という国は革  
命の血ひとつ流さずにこれだけ  
平等の社会になってるんですよ  
ということを言いました。あな  
たがたはすぐ口を開くと日本帝  
国主義がとか、プロレタリアと  
かどうのこうのと言うけど、今  
日本にはプロレタリアートつて



いうのは少なくとも数字の上で  
は存在しない。マルクス・レー  
ニン主義による生産手段という  
ものは、一部の個人、松下幸之  
助とかソニーの井深大さんとか  
という個人の手に財産が握られ  
ているのじゃなくて、松下幸之  
助さん今今の日本の税制だとお  
孫さんの時代には財産はゼロに  
なりますと、まあそういうよう  
な国になってるんですよと言  
つたら大変複雑な顔をしており  
まして、我々ソ連もこれからそ  
ういう社会を実現するんだと言  
つておりました。  
今、例に申しあげましたのは、  
日本を外からみると内にはいろ  
いろ問題をかかえているんだけ  
ども非常に夢の島国のような「ハ  
ッピージャパン」ということを  
最近しきりに外国の人は口にし

ます。ハッピー日本、幸福な日本列島というような羨望の意味をこめて、かつてマルコポーロの昔に、黄金の国ジバングと世界の人達がまだ見ぬ島国の金のうなる日本に憧れをいだいたように、今、日本に対しては、二十一世紀をになう大変な経済大国というひとつの期待と尊敬とそしてその裏返しとしての羨望と嫉妬、憎しみというものが今うずまいております。このことを、やはりかなり口をすっぱくしていわないと、どうも私共は、自分達の生活の身の回りを、とても暮しは働けど働けど楽にならずというような感じばかり先行いたしまして、世界が自分達をみている目というものに気が付きません。そして、その日本の成功というのが一発の鉄砲を撃ったわけでもない経済という手段によって、ソロバンによって勝ちとったものだとしたが、大いばりで世界にまかりとおるはずだとういうふうにもどうも考えがちなんですけれど、ソロバンで得をした人の陰には損をした人の涙あり、そしてまた、経済はある意味では大変な暴力であると、こういうことがいろいろな面ですてきております。

んだという時代じゃなくなった。そういうのが、まず私共の危機認識の第一だということを申しあげたいわけです。日本がそういうふうな夢の国だとういうふうになつてきた、それはもちろん私達日本人ひとりひとりの気質であり、勤労意欲であり、また、家族一緒になつて築いてきたものであることに疑いを抱く人はいりませんけれども、同時に世界の目からみると、日本ほど環境に恵まれて、また、運が良かった国はない。私共、特に広島の方はそうだと思いますが、平和というのとすぐ核戦争・米ソの平和ということを考えます。しかし、第二次大戦で皆様の縁者の方が尊い犠牲をだされたこの戦争、いたましい戦争の後、世界では実は二千万人の人が戦争によって命を落としております。戦争というのにはなにも核兵器に

よる米ソの戦争だけではなく、世界には国連の統計によると戦後だけで三十二の小さな局地紛争というものが起きています。現在でも、イラン・イラクとの間で連日の殺し合いが行われ、イラン側は十歳代の少年兵がどんどんと死んでゆきます。そういう局地戦争に日本は一度もまきこまれなかつたばかりか朝鮮の動乱、ベトナムの戦争いずれもそれによって大変な漁夫の利を占めました。まあ、焼けぶとりという言葉は悪いのですが、朝鮮の戦争のおかげで日本は戦後の復興をなしたとげた。ベトナム戦争のおかげで、アメリカが軍事に狂奔している間に、民政面でどんどんアメリカを追いつき追い越すことができ、まあそういうラッキーボーイでもあります。

## 転換期に立つアメリカ・ソ連

さらに、米ソの平和、ラテン語の「パックス・ルソソ・アメリカーナ」と言います。つまり、米ソという核をもつた超大国が平和を保つたこの戦後四十年間、その中であつて日本はアメリカの核の傘の下に入つて、この米ソの平和の恩恵を先ほど申

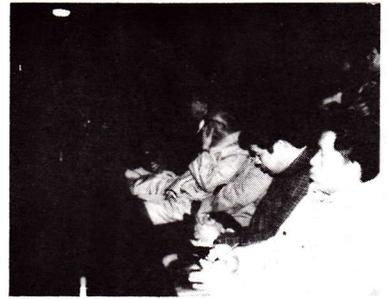
ためには大変他力本願なことで、すが、経済が暴力だということとを認識すること、第二は米ソの平和に我々は好むと好まざるにかかわらず、その平和の運命を握られているんだということですね。これが第二の問題、しかも、その米ソが今非常に転換期にきているということでございます。ちょうど私が三日前にモスクワから帰つたばかりですから、このソ連の見聞記を含めまして、第二の平和の要件、米ソの状況が今どのようになっているのか、ソ連という国はどういう国なのか、というようなことを次にお話してまいりたいと思います。

ソビエトは、先月二十五日に五年に一回開きます党大会というのを行いました。私はその招待で党大会を見学してきた訳です。五千人の全国から選ばれた党員が、その党大会に集まりまして、そしてこれからの五か年計画というのを決めまして、計画経済の国ですから、それにしたがつて、これからの五年間のソ連の進路が決まっていく訳です。

二十五日に、三月に入つて誕生日を迎えて五十五歳になりましたが、そのときまだ五十四歳の若きゴルバチョフ書記長が政治報告というのを行いました。若さが売りもののゴルバチョフさんは、終始、まあ二回コーヒープレイクでお休みがございましたが、五時間の大演説を行いました。そのポイントは、新聞でも報道されましたけど、フィリピンニュースの陰に隠れてご存知ない方もいらっしゃるかもしれません。

三つあります一つは、だいたいで共産党の大会っていいですよとシャンシャン大会でございまして、全部の決定が全会一致、拍手をしておしまいと、こういうことなんです。しかも業績を礼賛するというのがこれまでのしきたりでしたが、第一には、厳しい自己批判をやつたことです。ご承知のようにソビエトは病める大国とか、衰退する帝国とか、西側では言われておりました。そのことを、しかしゴルバチョフさん自身はつきり認める自己批判の激しい演説を行いました。過去の惰性管理の形態や、官僚主義の跋扈、このまま放つておいたらソ連はたいへんなことになる、厳しい自己批判でございまして、これがまず第一の特徴です。

第二の特徴は、現代の世界情勢というもので、米ソの平和の軍縮の可能性があるということ。



しかしそれには、アメリカがS  
DIというようなものを放棄し  
なくちやあけないし、また、平  
和の問題は五大国で話し合いま  
しょうという。この五大国とい  
うのは、国連安全保障理事会の  
常任理事国であります、米、英、  
仏、ソ、中国、この五カ国をさし  
ます。そのへんは、国では日本重  
視などというておりますけれど  
も、いざ肝心なことを話し合う  
ときには、第二次世界大戦の果  
実をいまだに戦勝国の地位をや  
っぱり手離さないわけですね。  
ただ、今度の政治報告の中に、  
初めて日本というのが、アメリ  
カ、西ヨーロッパ、日本という  
形で三本立てでふれられており  
ます。

先瑞技術では、日本は、アメ  
リカに挑戦状をつきつけたと、  
こういう表現が使われている訳  
です。このことは専門家からみ

ると、たいへん重大な変化であ  
りまして、これまでソ連という  
国は、力というものを信望する。  
しかし、その中でも核兵器とい  
うものに代表される、軍事力し  
が尊敬しない。経済力などとい  
うのは、吹けば飛ぶようなもの  
だというのが、これまでの教条  
主義的な共産主義の、いわゆる  
力に対する観念でした。ところが、  
が、初めて日本の技術とか、日  
本のそういう潜在的な力という  
ものを、そういう公式の報告で  
認めたのです。

三番目に政治報告で注目され  
たのは、かつての池田さんじゃ  
ございませんが、今世紀末まで  
にソ連の所得を倍増いたします。  
そのためには、この経済的な制  
度などを革新的に改革する。ラ  
ディカル・リフォームというよ  
うな言い方をしています。ある  
いは、規律を強化して、やるん  
だというようなことを言いまし  
た。この三つが、政治報告の大  
きな柱でございます。

結果的に自分の腹心を入れて、  
その立場を固めています。まだ  
手をつけていないのは、軍部と  
か秘密警察のKGBなんですけ  
れども、軍というのは定年制も  
ない、いわば一種の聖域でもあ  
りますし、KGBも同じであり  
ます。で、この点については、  
若いのによくやるというのがお  
おかたの評価です。

二番目にやったことは、内政  
面の、特に規律の強化というも  
のです。ソ連という国は、なぜ  
病める大国であるのかといいま  
すと、平均寿命が六十二歳と先  
進国の中で最も低い、しかもこ  
れは十年前に比べて、五歳も平  
均寿命が下がっております。日  
本が八十歳代であるのに対して  
ですね、それだけに開きがあり  
ます。なぜか、医療設備とか全  
般的な水準ということもありま  
すが、大きな原因がアル中であ  
ります。アルコール中毒、それ  
から計画経済ですから、もう表  
だけごまかしていればいいとい  
うことで、さばり、欠勤してい  
うものが世界一多い。そして汚  
職が行われる。これを俗に「ソ  
連の三悪」ということを言っ  
ておりました、ゴルバチョフはこ  
の三悪の退治に、前任者同様の  
り出した訳です。

実に十五年間にわたって軍事費  
に注ぎこんだ。このツケが十分  
に効いておりました、ソ連の民  
生の向上というのは、そうなま  
やさしいことじゃありません。  
私久しぶりに参りまして、以  
前は、例えば寒いんで毛糸の帽  
子を手編みのをみんなかぶって  
いたんですね。このごろは、か  
なりこの毛皮の耐寒帽をかぶる  
人も増えました。ミンクまで  
はいきませんが、毛皮を着る  
人も増えました。それも、だん  
だん西側のファッションに近づ  
いて、ジーンズをはく若者も増  
えました。デパートなんか行  
きますと、彩色とか趣味は必  
ずしもよくはありませんが、けれ  
ども、一応衣料面は、十年前  
に比べると、二十年前の日本ぐ  
らいの水準にはきております。  
食も、味について文句を言わな  
いかぎり、例えばパンなんかは  
異常と云ってよい程安い。安ず  
ぎて国家財政は、いわゆる一般  
会計は大赤字、しかもパンが安  
いもんですから、パンを買って  
凍らして、それを家畜のエサに  
しちゃう訳ですね。そういうこ  
とから、ただでさえ食糧が不足  
している農業危機の国で、また  
深刻な食糧危機が起きる。そう  
いう悪循環が起きておりますが、  
食は何とかいっている。しかし、

これまでソ連びいきの人は、「い  
や、そうは言うけれどもソ連の  
住居はいいんだ」と言っており  
ましたが、今度の党大会で明ら  
かになったところによりまして、  
モスクワの三分の一のアパート  
は、建って一年目から雨もりが  
したり、修繕の要がある。だい  
たいソ連では公団住宅、三世帯  
が一プロックに入る。一LDK  
に三世帯が入る。便所、浴室共  
用ということださうであります。  
こういうことをきびしい自己批  
判をこめて、いろいろ明らかに  
してくれました。二十七回の党  
大会でいろいろ明らかにした  
ようなその停滞、惰性を打ち破  
るのは容易ではない。ある西側  
の記者は、こういう言い方をし  
ております。「今度の党大会の  
ソ連の言い分を聞いてみると、  
ソ連の政府は人民の信頼を失い  
つつある。したがって、新しい  
政府を選ばねばならないのでは  
なくて、新しい人民を選ばねば  
ならぬ、と言っているように聞  
こえる。」と云っております。確  
かに、ロシア人かたぎを一朝に  
して変えようというゴルバチョ  
フさんの前途は、そう簡単なも  
のじゃありません。先ほど申し  
あげたような、車ひとつをとり  
まして、百人に一台の普及率、  
まあこれはソ連側の統計によれ

ば二十三人に一台ということになっておりますから、公平に紹介しなければいけませんけれども、アメリカの生活水準、日本の生活水準にせまるにはたいへんな時間がかかります。ソ連という国は、軍事力に力を入れ過ぎて、そしてまた、計画経済の悪い面を、そしてまた、ロシア人の怠惰さ、そういうものが全部いっしょになって、今歴史上たいへんな苦境に立つ。これが一応名目上世界の軍事大国ソ連の実像であります。

じゃ、一方のアメリカはどうか。アメリカは、去年一年再び苦しい状況に立ち戻ってきました。まる一年前、二期目の大統領に就任した、ロナルド・レーガンさんは、アメリカの再生、自信の回復ということを言いまして、今や偉大な産業大国アメリカがよみがえった、自動車産業も、もう日本の猛追を避けて再び競争力を強化した、ということを誇らかに年頭の一般教書で読み上げました。しかし、去年一年過ぎてどうだったか。

自動車産業はよみがえったどころか、日本の自動車産業に完全に小型車の面では、もう太刀打ちできないところまで差をあけられてしまいました。それが貿易の黒字、アメリカの赤字に

なつて現れていることは、もうみなさんご承知のとおりです。しかもアメリカは、異常なドル高のためにですね、しかもアメリカの経営者の体質というのが、短期にどんどん業績をあげようとしては、労働力や何かの安い海外にどんどん産業が出て行つてしまいます。

たとえば、八年、七年前までは、工作機械といえばアメリカが世界一でしたけれども、今や日本がダントツに世界一です。どうしてかと言いますと、その当時工作機械が儲かるということになると、アメリカの企業家は、どつと工作機械に投資をしたんですけれども、これがちょっとした不況で儲からないとなると一斉に資本を引き揚げます。そのために工作機械の作る会社がどんどんと倒れてしまいました。結局、わずか七年間でその王座をあげわたしてしまふ。

鉄も産業のいわば根幹をなすものですけれども、今やアメリカの鉱炉はほとんど閉鎖状態です。アメリカが使っている鉄は、日本とか韓国とかヨーロッパから輸入している鉄であります。

つまりアメリカでは今、金利も高い。ついこの間まで、ドルもべらぼうに高かったんで、「マネーゲーム」と言っておりますが、

金をおろしている方が、苦勞して工作機械を作つたり、自動車を作つたりするよりもいい。まあ、そういう非常にいびつな経済状態になつてきてしまつてゐる。

アメリカについては、ソビエト以上に情報がありますから、これ以上のことは申し上げませんけれども、米ソというものがある意味で大きな転換点になつて、なんとなく超大国などという、日本なんかとてもかなわないような国に思えますけれども、それはこの武力の兵器の面だけでありまして、国力という意味では、いずれもこの世界を四十年間牛耳つてきた「バック

## 日本に厳しい世界リーダーの目

第三の危機、これが結論に近くなつてきますけども、これが散々ニュース等でお伝えしている「摩擦」の問題であります。

なぜ摩擦が起きるかというのはもう申しあげるまでもありません。先ほどから申しあげているような秒速五十万円の真空掃除機で全部吸い上げている訳ですから、恨みをかわない方がおかしい訳ですね。じゃあ、どれくらい嫌われているのか。まあ、これはいろいろな言い方があり

ス・ルツソー・アメリカーナ」つまり、米ソの平和というものが、今、音をたてて崩れるようななきざしを見せている。だからこそ、米ソはジュネーブで協議をして、相寄る魂で何とか米ソだけで話のつくものはいしようじゃないか。日本なんかたいへん無視をされた話だと思いますが、おそらく今年から来年にかけて、ヨーロッパにおける中距離核の軍縮ということが実現されると思います。この際、アジアは別であると、日本に対しては、ソ連のSSIはその鋭い針先を向けたままの状況というのが続くと思います。まあこれが平和の条件の第二でございます。

ますから、まず一般の世論というものを考えてみますと、これは総じて、日本に好意的でございます。なぜか消費者というのは、いい商品があれば当然それを買って喜びます。日本が作るラジオもテレビも、もう明らかにいいですね。日本の商品が良くて安いつてことは、もうさすがに世界中に知れわたつてますから、世論調査をしてみますと、日本が嫌だと答えている国は、世界二百国近い中で韓国

だけです。一般国民の対日感情というものは、非常にいいということが言える訳ですね。もちろんいろいろな偏見はまだ残っておりますけれども、しかし、ああいうすばらしい製品を作る日本、まずその製品の良さに感心して、そして、そういうものを作るのは必ずしも一時考えられていたような低賃金とかダンピングとか社会保障がないとかということだけじゃなくて、やはりその底にはすばらしい文化があるんじゃないかということ、日本の文化に対する尊敬の気持ちというものも、一時に比べると、ずっと本質的な意味でわきあがっています。一般の国民は、そういうふうには日本についてもの、次第に好意と感心を寄せだしている。ところが、問題は社会を率いていく人、あるいは、日本と競合する製品を作っている工場の責任者とか経営者とか、そういうリーダーであります。フランスのある有名な貿易大臣がこういうことを言いました。「今この地球上からソビエトという軍事大国で経済小国、日本という経済大国で軍事小国が消えてくれば、なんと残りの我々は幸福であつたらうに」とまあこう言うんですね。ここらへんもリーダーの

率直な声と想います。アメリカのリーダーが、心底日本を脅威に感じていることは言うまでもありません。ちょうどまる一年前の昨年三月に、アメリカの上院は、九十二対〇というまったく異例な反対票なしという表決で、日本を非難する決議を採択いたしました。とにかく日本のやり方はキタナイ、アンフェアだ、ということをかんにアメリカの人たちは口を開けば申します。日本に言わせれば、ち

やんと平等の機会を競争して、同じ土俵でやったことで何ら不正はない、と言いたいところではありますが、アメリカの現在のアンフェアだという言い方は、そうじゃありません。ボクシングじゃないけれども、本当にフェアにやるには、体重別にしなくちゃいかん、というようにことまで言い出します。つまり、チャンスの平等というのではなく、結果が平等にならないければ、こちらの黒字が減って、向こうの赤字が減らなければ、結果において平等じゃなければ、それはアンフェアだ、というようなかなり無理な言い分にアメリカの言い方が変わってきています。

アメリカ人の最近の言い分を聞いておきますと、日本はゴルフでいえば、ハンディなしでスクラッチプレイヤー同志でゴルフをしようというように言っている訳ですね。アメリカはそれに対して、それじゃ日本が勝つに決まっているから日本にハンディをつけろと言っている訳です。そういうそのゲームのルールみたいなものが今求められていて、これが、これからの大きな問題点になってくるように思われます。

そろそろ時間の関係で、結論の結論を申しあげなければなりません。今申しあげた三つの点、日本の世界における存在感の巨大小、そして二番目に、米ソの不安定化と、しかし同時に、米ソ結託の可能性があるということ。そして第三に、日本が庶民の面とはちがって、やはりリーダーの間でぶんなぐられそうなく、つまり孤立の危険があるということ。この三つが、私どもが世界の中の日本というものを考える場合に、異常な危機感をもっていると感じている三点です。つまり日本人の資質、努力もあるけれども、やっぱり日本が、環境に恵まれて今日まで来たんだというところを、どうも肝心の私どもが知らない。アメリカ人は、口を開けば、今になってみると、これは広島で言うのはつらいん

ですが、原爆まで落としてやつけたはずなのに、とどめの一投をさしたはずなのに、どちらが戦勝国かわからない。これが七月二十九日、アメリカの有力新聞ニューヨークタイムスに掲げられた、有名なセオドーホワイト論文の要旨です。原爆まで落としてやつけたはずなのに、どちらが戦勝国かわからない。まあこれがアメリカの本音の本音だろうと思えます。つまり、日本に対する尊敬とか、脅威をおぼえる一方で、日本人の極度の成功、そしてそこから来る身勝手さ、傲慢さに対する怒りが、今非常にアメリカあたりで渦巻いているということが言

えると思えます。じゃあ日本はどうするのかと、戦前のようにそんな生意気なことを言うなら、「パールハーバーをやつつけるぞ。」ということじゃあ、これは悪循環の昔来た道であります。しかも日本は、国際依存度は極めて高く、食糧ひとつとってもアメリカなしではやっていけない国です。そうしたらどうするのか。これは極めて口で言うのは簡単です。けれどもそう簡単じゃありません。



## 日本人に欠ける博愛精神

これが、結論の結論なのですが、私たちやはりユネスコの精神というものを、本当には理解していないんじゃないかと。ユネスコがつくられたのは、再び戦争の惨禍をもたらさないうために、人の心の中に平和の砦を築くということだったはずですが、その平和というのは、広島で原爆の惨禍を叫んで、世界の世論の喚起をすることはもちろん必要ですけども、同時に私たちが、アフリカで飢えに苦し

む人があるといえれば毛布を送り、浄財を投じる。あるいは、フィリピンでアフリカ以上の厳しいスラムの状況があるといえれば、それなりに貧者ならぬ金持ちの一燈を投じるといふ時代にかけているじゃあないかと、いつまでも私どもは敗戦国で、私どもは被爆国民で、私どもは貧しくて、といった被害者妄想から、そろそろこの世界の表舞台の好むと好まざるにかかわらず、主役の場を与えられて、そしてやっ

ていることは確かな平等な社会であります。

確かに、茶の間のみなさんが検事でもないのに、まあ特にこれは民放さんの場合ですが、三浦さんという人を糾弾できるような自由があり余っているほどの国です。しかし、何か欠けてやしないか。自由・平等・博愛のうちの三番目の博愛が、今日本が一番世界から嫌われているところなんですね。ベトナム戦争で、しこたま儲けながらベトナムの難民を引き受けた人数は、日本の人口の二十分の一にも満たないスイスのまた十分の一です。アフリカに確かに毛布を送りましたけれども、この金持ち国にしては、フランスの五分の一です。国際化が叫ばれながら、日本に来ている外国留学生はわずかに一万人、フランスは十三万人、アメリカは三十万人の留学生を引き受けています。国際化だ、やれ国際人だと叫ぶ前に、私たちができることはまだいっぱいある。そういうところが、実はこれからは、自分たちの世界の中の生存にも結びついているということなんだというところを、絶えず考えているものでございます。どうもご静聴ありがとうございました。

# 国際交流研修会を開催

広島市教育委員会 瀬田 洋

昭和60年11月16・17日(土・日曜日)の両日にわたり、広島市婦人教育会館において、国際交流活動研修会を実施しました。紙面をお借りして、この研修の概要を報告させていただきます。

この研修会は、文部省から委嘱され、広島県と広島市において隔年ごとに実施している事業です。今回は、国連婦人の十年の最終年に当たり、婦人の社会参加を促進するための一環として、婦人を対象に、在広アジア

守福さん(中国)は、「男女平等は中国では当然のことであり、日本で生活してみても日本の男性がうらやましい」と冗談混じりに金桂植さん(韓国)は、子供の教育の問題を中心に「韓国では、両親共に働くケースが多く、帰宅時間が遅いため教育上の様々な問題が出てきている。母親の役割は重要で家庭における権限はかなり強い」とレポートされました。さらに王錦貴さん(マレーシア)は、「日本では男女の差が著しい。例えば『おいお茶』と給仕させたりする。マレーシアでは考えられないこと」と、

ブルー・シュレスタさん(ネパール)は、平和の問題にふれながら「今の子供は戦争を軽く考えているのではないか、戦争を否定すること、原水爆を廃止することをもちと親、特に母親は訴えて欲しい」と感想を述べられました。これを受けて、二日目の午前中にかけてグループごとに話し合いを深めました。

して心の底に流れるものには、互いに分かり合える部分があり、それを基底にした交流が可能となるのではないかと感じた人が多かつたようです。対談の終りにオマタ氏に奏でていただいたシタールの響きは、そのことを象徴していたようです。

初日は、広島大学助教授二宮皓氏の司会で、在広アジア留学生五氏から「家庭生活と女性の役割」についてレポートしていただきました。まず、ジェロエシクアン・マイトリーさん(タイ)は、「タイでは、男女の役割分担は、日本ほど固定的でない。日本の女性は非常に忙しいと思う」との感想を述べられました。李

午後には、スシユマ・オマタ氏(東京芸術大学講師)と日隈健王氏(広島修道大学教授)の「日本との出会い、今日、明日」をテーマとした対談を聞き、多様な生活文化の中にも、アジア民族と

国際交流の実をあげるためには、民間交流を活発にすることが必要であり、互いに知り、生き方を確認し、認め合うことが重要である、というコンセンサスを得ました。

## ことしは国際平和年

### 軍縮の推進、人権と自由の行使

国際連合では、本年(一九八六年)を「国際平和年」(IYP: International Year of Peace)と定め、世界各地で、この趣旨にもとづいた催しなどが行われていることは、ご案内のとおりです。この国際平和年については、これまで、様々な媒体とおして市民に知らされておりますが、われわれは、改めてこの国際年の目的とするところを再確認し、今後のユネスコ活動の指針とすることいたします。

国連組織において、多種多様なプログラムを準備しておりますが、国連教育科学文化機関(ユネスコ)では、平和、国際理解、人権に関するユネスコのプログラムの範囲内で、平和の基盤とその構成要因、軍備競争の教育、技術、文化ならびにコミュニケーションへの影響等のテーマについて研究調査を行うこととしております。

要な責務を遂行する上での効率をよくする。  
c、国際連合の活動に対する各国の意識と支持を高める。  
三、現代世界において平和に不可欠な基本的条件に社会の関心を向ける。その際、特に次の点に留意する。  
a、平和、経済的開発ならびに社会的発展の相互関連性。  
b、軍縮を進め、核による破壊を防止することの緊要性。  
c、人種差別とアパルトヘイト(人種隔離政策)の撤廃。  
d、平和の基本的要因として

労働ならびに好ましい環境等、人間になくはない基本條件を充足するための条件としての平和。  
f、教育、科学、文化、宗教ならびにマスメディアが重要な役割をにない、さまざまな社会的グループ、特に女性、青年、高齢者、退役軍人等による積極的な参加を得た平和な生活のための準備。  
g、政府、議会ならびにNGOの参加のもと平和を維持する上で、国際的な協力、対話、相互理解ならびに信頼が果たす役割。

#### 〔国際平和年の目的〕

一、国連憲章に基づいて平和、国際の安全と協力を推進し、平

一、国連憲章に基づいて平和、国際の安全と協力を推進し、平

二、平和の推進と維持を目的とする主要な国際機関としての国際連合を、次の方法によって強化する。  
a、加盟国に対して国連憲章の原則に対する誓約を新たにし、この原則を効率的に履行するように奨励する。  
b、安全保障理事会が国際の

e、食糧、住宅、保健、教育、